



TITLE:

伊藤良二・阿部宗光, 『アジア各国
の教育事情』, 帝国地方行政学会,
東京 : 1965, 88p

AUTHOR(S):

高木, 太郎

CITATION:

高木, 太郎. 伊藤良二・阿部宗光, 『アジア各国の教育事情』, 帝国地方
行政学会, 東京 : 1965, 88p. 東南アジア研究 1966, 4(2): 389-389

ISSUE DATE:

1966-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55212>

RIGHT:

図書紹介

伊藤良二・阿部宗光『アジア各国の教育事情』帝国地方行政学会，東京：1965，88 p.

アジアの各国は無知と貧困から抜け出するために，教育の普及・発展の計画化に多大の努力を傾けている。日本はアジアの一員でありながら，アジアの国々の事情に対する認識も低く，発言も消極的である。本書は著者が訪れた国々の教育事情を紹介しながら，国民の関心を高め，理解に資しようとしている。

本書は2章から成り，第1章ではアジア各国の長期教育計画をとり上げ，そこで考えられているアプローチの方法として，財政的観点からするものと，人材養成の面から推していくものと，教育全体の社会的・個人的要請から考えるものとの三つのアプローチがあるとする。この三つのアプローチはいつかは必ず考えなければならない要件だが，どれから始めるかといえ，アジア各国では経済成長率，租税額，総教育費比率，いずれもが日本より低いので，教育全体の発展計画を欠くことはできないが，経済発展計画とのバランスを失ってはならないと説いている。

第2章ではアジア各国の教育事情と題して初めに概観，次に各国の教育事情を解説している。全体の問題として，文盲率を低下させるために質を犠牲にしても量的普及に力を入れなければならない各国の現状を指摘する。次に原級留置・中途退学等の wastage の多いのが特徴である。教員については，獲得するためには優遇しなければならないが，どこの国でも教員給与が教育費の大部分を占め，そのしわよせが設備・施設によせられている。アジア諸国ではナショナリズムの高揚のために言語の統一という大きな目的達成が要請されている。中等教育の発達にはアジア諸国でもおこなわれているが，職業教育，教員養成に力を入れている。農業国が多いにもかかわらず農業教育は比較的軽視されている。指導者養成のために高等教育にも努力を払っているが，施設にはアンバランスが見られる。

次に各国の教育事情について説明が行なわれるのであるが，アジア諸国といっても，その自然的，社会的，文化的，歴史的条件はいちじるしく異なり，低開

発国として一律に見ることはできない。むしろ経済発展と教育発展の二つの関係のからみ合いによって，いくつかの型を示した方が自然であろうとして，経済発展の進んだ国，教育発展に期待をかける国，両者のバランスのとれている国の三つの型を想定している。

最後に資料の関係でアジアの8カ国について教育制度と教育の現状を紹介している。すなわち，韓国，台湾，フィリピン，カンボジア，タイ，マレーシア，インドネシア，インドである。東南アジア諸国といってもいかにちがった面が多いかに比較教育の研究上興味がある。主として国の発展計画の中における教育計画，特に経済と教育との関係の見地から東南アジア各国の教育問題についての情報を与えてくれる小冊子である。（高木 太郎）

UNESCO & IAU. *Higher Education and Development in South-east Asia*. Paris : 1965, 84p.

国際大学協会編『東南アジアにおける高等教育の役割』東京：民主教育協会，1965. 147 p.

フォード財団の協力と援助とによって1961年以来進められてきたユネスコおよび国際大学協会の共同研究計画の第2のもので，東南アジア諸国の経済的開発のための大学の役割についての研究の概要報告書である。その研究の対象はビルマ，カンボジア，インドネシア，ラオス，マレーシア，フィリピン，タイ，ベトナムの8カ国である。東南アジアの大学の機能は国家目的の達成という観点から見られるべきだという立場から論じられている。その国家目的は経済成長の達成に限らず，社会的，文化的，政治的な目的をも含める広い意味に解釈されている。

報告書は東南アジア地域の自然的・民族的・文化的特徴についての紹介からはじまり，各国の教育制度の輪郭をえがき，経済的・社会的・文化的問題を観察し，開発計画の概要を述べ，それに必要な高水準の人